

### アルヴァ・アアルト (1898-1976)

『古いものは新しく生まれ変わりはしないが、完全に消え去ることもない。そして常に新しい形態に修復することが可能だ。』

「北欧モダンデザインの父」と呼ばれるアアルトは20世紀の偉大な建築家であると同時に、フィンランドの日常生活に溶け込み、今や定番となった家具や食器などを手がけたデザイナー。機能性と普遍性を兼ね備えた作品の数々は世代を超えて受け継がれている。

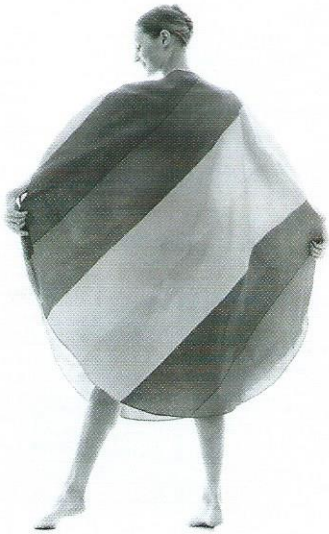
Alvar Aalto

椅子《スツール 60》  
アルヴァ・アアルト  
1933年  
アルテック  
© Artek



### Eero Aarnio

椅子《Ball Chair》  
エーロ・アールニオ  
1963年  
ナゼロ蔵  
© Eero Aarnio



Vuokko Eskolin-Nurmesniemi

ドレス  
ヴォッコ・エスコリン-ヌルメスニエミ  
1964年  
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵  
© Designmuseo

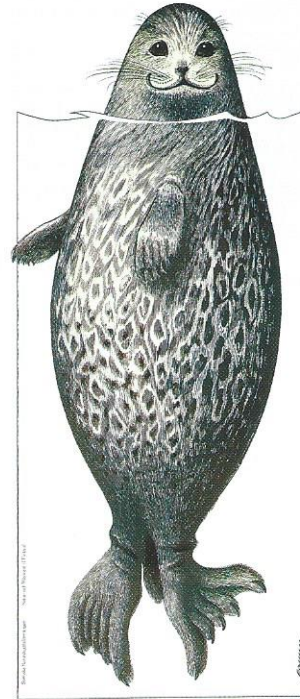
### マイヤ・イソラ (1927-2001)

『日常の雑事も、それがユニークだと  
思えば洗練されたものになるわ。』

『マイヤ・イソラ マリメッコのテキスタイル・デザイン』  
ピエ・ブックス出版 (2006)

マリメッコを代表するデザイナー。フィンランドの自然だけでなく、異国の地への旅などからイメージを得て作られたファブリックは幾何学的で大胆なデザインが特徴。誕生から50年を経てもなお愛される「ウニッコ」が彼女の代表作。

Poster of Finnish seal  
Erik Bruun  
1974年  
作家蔵  
© Erik Bruun



### Erik Bruun

ポスター『自然保護団体』  
エーリック・ブルーン  
1974年  
作家蔵  
© Erik Bruun

### エーリック・ブルーン (1926-)

『こんなに仕事を長く続けられたのは、  
描くことが趣味でもあるから。』

『エリック・ブルーン 北欧フィンランドグラフィックの巨匠』  
エリック・ブルーン著 / バイインターナショナル出版 (2015)

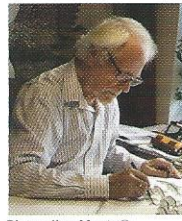


Photo: Ilpo Musto ©

フィンランドを代表するグラフィック・デザイナー。大胆な構図で動植物を生き生きと表現した作品から、多彩な色使いのポップな作品まで、幅広いデザインは、広告ポスターや切手、ポストカードなどさまざまなツールで使用されている。

座ってみよう!  
体感コーナー

有名デザイナーの作品に座りながら、フィンランドの景色を楽しめるコーナーが会場内に登場!

会場内体験コーナー  
「パピーのぬり絵」

アールニオの「パピー」のぬり絵を会場内でお楽しみいただけます。完成したぬり絵は会期中、会場内で掲示します。あなたのセンスでパピーをカラフルに彩ってください!

### Oiva Toikka

ガラス《バード》  
オイバ・トイッカ  
イッタラ  
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵  
© Designmuseo



Visit Finland

### 春 kevät

あたたかな雨が春を連れてきた。森には新しい緑が芽吹き、雪の下からは小さな花が顔を出す。うきうきわくわくした私の気持ちをそのまま表したみたいな、マリメッコのお気に入りの服を着て街へ出かけよう。



Visit Finland

### 夏 kesä

Juhannus(ユハンヌス:夏至祭)は太陽に感謝するお祭り。美しく短い季節を楽しむためフィンランドの人々は森のサマーコテージで過ごす。そこは家族との大切な時間を快適に過ごすためのデザインにあふれている。



Visit Finland

### 秋 syksy

Ruska(ルスカ 紅葉)の風景は、やがて来る冬の前に自然が見せる東の間のカラフルな世界。黄・赤・茶・緑...幾重にも折り重なるその色合いは、フィンランド人の日常生活のあらゆるデザインに息づいている。



Visit Finland

### 冬 talvi

さっきまで降り続いていた雪がやんだ。しんと静まった夜にオーロラのカーテンがにぎやかに舞っている。ぱちぱちとはぜる暖炉の音を聞きながら、おじいちゃんからもらった大事なアアルトの椅子に座ってお気に入りの本を読む。